

三郷の里
「住民の力による地域づくり」
～人と人とがつながる交流の場をもとめて～

吉賀町 朝倉公民館

1. 朝倉公民館の概要

朝倉地域は島根県の最西端にある吉賀町の西南に位置する山々に囲まれた自然豊かなところである。町全体の人口は、7135人（平成20年3月末）で、そのうち朝倉地域は827人。少子高齢化が進み、吉賀町の高齢化率37.7%を大きく上回り、地域全体の平均は、42.7%で、蓼野地区においては64.0%と大変高くなっている。公民館は、清流日本一に輝いた高津川流域に広がる注連川、朝倉、急峻な山に2分割された蓼野の3地区の中央にあり、近くに朝倉保育所、朝倉小学校がある。

少子高齢化が進むなか、高齢者の学び、健康づくり、子どもとのかかわりの事業を重点に置き取り組んでいるところである。

2. 事業の概要

（1）はじめに

①実証事業名 「住民の力による地域づくり」

②実証事業テーマ 「高齢者と子ども、地域が元気」

～人と人とがつながる交流の場をもとめて～

③ねらい

少子高齢化急速に進み、地区においては学童が1人という状況。公的交通手段がほとんどない状況で、地域間の交流も少なく、人間関係が希薄になってきてなかなか人と人のつながりが持てないという課題がある。そこで住民のつながりを再生していくために様々な場面で関わりを持ち、「人と人とがつながること」に焦点を当て、「住民の力による地域づくり」を進めていく。そして地域と子ども、高齢者と子ども、地域住民のこころのふれあい、またつながりを深め、輪を広め、地域の活性を図り、体もこころも元気な地域を目指している。



(2) 具体的な取組

①「朝倉地域を元気にする会」発足

7月9日（水）

会の構成は、自治会、公民間、老人会、各種サークル、団体の代表等。地域住民のつながりを密にするためにも、自治会は、各自治会長全員に参加、地域の現状と課題、地域の宝、子どもとの関わりについて協議。2ヶ月に1回、又事業、イベント前後に協議会を開催。合い言葉を募集し、「みんなでつくろう元気な三郷の里」の幟旗を作成。又、各自治会に幟旗を持って帰り全地区で掲げた。（参加延べ人数 65名）



②花いっぱい運動（地域美化）

子どもから高齢者までが関わり、地域を花いっぱいになろうと夏はマリーゴールド、トレニア、地域の方が苗を持参でケイトウ、サルビアを植え、各停留所、学校に設置。10月7日（火）には、小学校生徒と地域がチューリップ球根植え、葉ボタン、パンジーなどの季節の花を種から育て各停留所に配置。各自治会でも沿道に花壇を作り、春咲きの花を植えたとの嬉しい声が届いた。（参加延べ人数 110人）



③子どもにかかわろう会

ア、子ども読書会

小学校対象の「あさくらっ子の会」と子育てサロン・すくすくサークル共催で月に1回第3土曜日に行う。本の読み語りと季節の行事を取り入れ、ゲームやおやつ作りで地域と未就学児、小学生とお楽しみ交流会を企画。

紙芝居や人形劇、楽しいお月見会の様子が中国新聞タウンニュースで紹介された。（参加延べ人数117名）



イ、通学合宿

7月2日（水）～4日（金） 小学生5～6年生を対象に食事の準備、掃除等を自分達でし、近隣の4戸の家庭にお願いし、もらい風呂を体験しての通学合宿。自主性を身につけ、地域のふれあいを目的に実地して3回目。今回は、英語で七夕飾り、そば打ち、御茶の作法も学んだ。支えて下さるボランティアさんの支援をいただき食事やあいさつ、助け合う大切さなど有意義な体験通学合宿となった。

（参加12名 ボランティアさん17名）



ウ、ワイワイ祭り

11月16日（日）小学校の生徒が地域の方々の恩返しをと学校で開催。児童が作成したユニークな御輿から始まり、父兄によるバザーがあり、生徒の劇や音楽発表がある。午後から交流広場として、地域の人と将棋、お手玉作り、竹とんぼ、絵手紙などでふれあい。地域の人達の作品コーナーもあり、学校、PTAと地域が連携することにより地域と一緒にワイワイ祭りを盛り上げた。



エ、ミニ門松作り

12月20日（火） 小学校5、6年生が田んぼを借り、自分達で植え、稲刈りした餅米で餅つきをした。餅米を蒸している間に青竹の筒に南天、梅、さざんか、水引、うらじろ等を思い思いに飾りミニ門松を完成。地域の方にうすときねをかり、餅つきも全員きねをふるい、全員でつきたてのお餅を食べた。収穫の喜びと地域の人とのふれあい交流ができた。（参加人数 25名）



④異世代間交流

ア、野外交流会

8月7日（木） トコトコトレインに乗り、旧長瀬小学校でバーベキューをし、午後は、川遊びで、川床の大岩が天然の滑り台となり、川下りや地域の方が竹でつくった水鉄砲で遊び、大歓声だった。夏休みで里帰りの方な4歳～83歳という異世代交流ができ、子どもも大人も笑顔の絶えない楽しい1日を過ごした。（参加人数 48名）
「地域住民が野外交流会」と山陰中央新報に掲載。



イ、地区民運動会

6月1日（日） 6月の第1日曜日に開催される恒例の合同大運動会。地域、学校、保育所が一体となって楽しい運動会の開催。学校と地域との連携を深めることができた。



ウ、グラウンドゴルフ大会

10月18日（土）河川敷において小学生を含め開催。
「みんなでつくろう元気な三郷の里」の幟旗を立て、
青空のもと三地区の交流、地域と子どものふれあいが
できた。（参加人数 67名）



エ、健康教室と料理講習会

料理教室と健康講座を組み合わせ年3回開催。保健福祉課の保健師のもと朝倉地域の健康実態を認識し、骨粗しょう症の予防、生活習慣予防を学習。ヘルスマイトさんの協力を得て、栄養バランス、カロリーを考え季節のものを取り入れ料理教室を行い、みんなで試食。



又、「お父さんの台所塾」とし男性の料理教室もした。午後には、地域校医の小笠原 康二先生による「健康で長生きをする方法」と題して講演をしていただいた。

6/19（木）「骨粗しょう症予防しよう」、

1/23（水）「吉賀で男性料理教室」、山陰中央新報掲載
（参加延べ人数 113人）



3、事業の成果と課題

- (1) 住民がつながるために自治会は自治長会、色々な団体や中心となる人がつながる「朝倉地域を元気にする会」を立ち上げ、朝倉地域全体の現状と課題について協議会開催（4回）することで行政に頼るのではなく、住民の力による地域づくりについて意識をもつことができた。
- (2) 地域を再生し、意識を高めていくために小学生や多くの地域住民に横断幕とイベントの幟旗の合い言葉（キャッチフレーズ）の募集を行い、各自治会やイベントごとに幟旗を揚げ、モチベーションを高めていくことができた。
- (3) 学校、地域、家庭が手を携えて子ども達と関わるようなふるさとの歴史と文化に学ぶ活動内容の充実に努め、地域の子どもは地域の手で育もうという意識の必要がある。
- (4) 地域活性化（醸成）に多くの人々が参加し「朝倉地域を元気にする会」が機能していくために一層の連携を密にし、公民館が窓口になって情報交換ができるよう努力していく必要がある。今後、地域の方の力を結集するしゃくなげ祭りや“朝倉フェスティバル”などのイベントを実地していく。